

# 平成16年度学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	57	学校名	県立土浦第二高等学校				課程	全日制		学校長名	中村 昌平					
教頭名	市川 彰								事務(室)長名	大畑 みち						
教職員数	教諭	53	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	0	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	5	技術職員等	2	計	63
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
	普通科	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
		123	197	123	198	111	206			357	601	24				

## 2 目指す学校像

心身の調和的発達をはかるとともに、個性の確立と人格の完成を目指し、平和な民主的社会の発展に寄与し得る人物の育成に努める。  
この教育方針を基礎に、21世紀を力強く生きる人材の育成をはかる。また、生徒個々の能力を最大限に伸ばさせることにより、生徒一人一人の自己実現を可能にし、地域から信頼される公教育機関を目指す。

## 3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学力向上	1 保護者・地域の期待が高く、現状の国公立大学進学実績は満足できるものではない。 2 生徒の受験意欲は高いが、それに伴う学習時間が確保されていない。	国公立大学進学者数を増加させること。 (現役100名以上) 計画的な家庭学習をさせること。 (最低、学年プラス2時間の確保)
生活習慣の確立	1 制服を着用しないで登校する生徒や、靴の踵を潰して登校する生徒が目立つ。 2 自転車の二人乗り等交通規範が身に付いていない生徒が目立つ。 3 家庭での過ごし方に規則正しいリズムがない生徒が目立つ。	生徒の規範意識を高めること。 交通マナーを遵守させるための工夫。 家庭での計画的な過ごし方をさせるための工夫。

## 4 中期的目標

- 1 入学生徒の90パーセント以上が国公立大学を志望しているが、難関私立大学への合格者が増加しているとはいえ、現実の国公立大学合格者は25パーセント程度にとどまっている。この現状を踏まえ、生徒の「本意入学」を目指す観点から、国公立大学現役100名以上合格、難関私立大学合格者の更なる増加を目指す。
- 2 家庭学習が1～2時間の生徒が大半であることから、習慣的な家庭学習の増加、定着を目指す。
- 3 各教科の効率的な学習指導を工夫し、外部テストで平均偏差値「55」以上を目指す。
- 4 規律、規範を遵守させ、基本的な生活習慣の重要性と自己の責任について自覚させることを目指す。
- 5 部活動、委員会活動をとあして、集団の中での「責任」、「個」のあり方を考えさせることを目指す。
- 6 毎日の清掃活動、月1回の「校内水拭き清掃」等を通して、「公共心」「奉仕の心」を身に付けさせることを目指す。

## 5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
16年度 1年次	<p>1 学習意欲を高め、確かな学力の定着を図るための教科指導体制を始めとする校内指導体制を確立する。</p> <p>2 自律性・社会性を育み、豊かな心を育てるための生活習慣を確立させる。</p> <p>3 情報公開を積極的に進め、開かれた学校作りを行う。</p>	<p>授業時間の確保。改善。授業の工夫・到達度を明確にした各教科のシラバスの作成。授業3年間の到達予習・復習を通して、自学自習の習慣化を図り、授業に対する学習意欲を高める工夫。</p> <p>自宅学習時間を増やす工夫。自宅学習時間を目安。1年3時間以上、2年4時間以上、3年5時間以上。</p> <p>担任と生徒の面談の推進。土曜日に開校開放及び補習等の課外授業の実施。長期休業中における組織的・計画的・集中的な補習の実施。遅刻指導等を通して、学習時間確保をサポート。</p> <p>学校行事・ホームルーム・委員会活動を通して、学校生活の満足度を高める工夫。図書館等の施設充実を図ることにより、よりよい学習環境の構築。</p> <p>安全で清潔な学習環境の整備。安全の日巡視指導を通して、交通マナー・遵守姿勢の確立。校内舎内外での挨拶の励行。遅刻指導等を通して、基本的な生活習慣を確立させ、自主的に物事に取組む姿勢の育成。規律・規範を遵守させ、基本的な生活習慣の重要性と責任について自覚させる工夫。委員会活動を通して、豊かな心の育成。</p> <p>教室を始めとした校内美化活動を通して、豊かな心の育成。</p> <p>保護者と担任との懇談会を計画的に実施し、教育活動への理解と支援を求め、保護者の積極的参加の工夫。</p> <p>学校行事ホームページの定期的更新。</p> <p>学校評議員の活用。</p>	
17年度 2年次	<p>16年度の目標達成度に応じ、さらなる目標を設定する。</p>	<p>16年度の各分掌の目標達成度を各分掌毎に精査し、反省点は即座に対応する。また、達成した項目については、さらなる目標を設定し、生徒・保護者・地域住民の要望に応える公教育機関を目指す。</p>	
18年度 3年次	<p>過去2年間の目標達成度に応じ、さらに高次元の目標を設定する。</p>	<p>16年度の反省点が改善されたか、17年度の目標が達成されたかを検討する。特に今年度は単年度の反省だけでなく、3年次計画のまとめであるため、複数年度の目標達成度の検討に重点を置き、地域で信頼される公教育機関を目指す。</p>	